

## ラオス国立大学における東京外国語大学学生のショートビジット報告

2024.4.3.

特定外国語主任教員

カムメット ポーカスイリ

2024年3月3日から3月16日の日程で私、カムメットを引率者として、東京外国語大学ラオス語専攻は1年生10名に対し、ラオス国立大学文学部ラオス言語文化学科にてラオス語短期研修、日本語学科にてタンドム学習を実施しました。ラオス語専攻として通算9回目を迎えた今回のショートビジットは、上記の他に、首都ビエンチャンの歴史的建造物や文化施設、さらにはラオス人の日常生活スタイル等を学ぶための校外学習も行いました。以下にその詳細を報告致します。

まず、初日の3月4日午前、ポーンサイ文学部副学部長をはじめ、関係の先生方のご臨席のもと、開講式が執り行われました。副学部長の大きいにラオス語を使ってラオスを体感してくださいという激励のお言葉のあと、カムメットからはラオス国立大学の本ショートビジット受入れのお礼を、学生からは貴重なこの機会を有意義に過ごし、ラオス語力の向上と理解を深めたいという挨拶をしました。



文学部での開講式

ラオス語の講義は読解と会話の2科目がありました。読解は、発音の向上、語彙力や表現力の強化、内容理解、内容要約の実践、作文練習に重点が置かれました。一方、会話は、発音の向上、流暢で自然な表現の習得、自由会話の練習に重点が置かれました。題材は市場、季節、観光、交通事情など、主にラオスの日常生活がわかるトピックを扱ったものでした。



ラオス語講義の様子



ラオスの市場にて

3月6日午後には市場

へ行き、店員と話したり、ラオスの生活用品を見たりと、キャンパス以外で各自がラオス語を使い、ラオスの人々との会話を実践しました。3月8～9日は、友好橋、タートルアン、パトゥーサイなど、ラオスの重要な歴史的建造物を見学し、学生はそれぞれにラオスへの理解を深めたようでした。3月11日はラオス言語文化学科所属の学生と交流会を行いました。お互いのプレ

ゼントについて話したり、ラオス舞踊やラオスのチャンパーの花の歌を歌ったりして、楽しく過ごしました。12日と13日の午後は、日本語学科の学生と一緒にタンデム学習を行いました。1日目は、本学の学生が「日本のさまざまな県」と題して各県の観光地と代表的な食べ物を1つずつラオス語で紹介し、質疑応答が行われました。その後、両言語を駆使してフルーツバスケットなど、簡単な日本の遊びを一緒に楽しみ、大いに盛り上がりました。2日目は小グループに分かれて日本とラオスの学生が協力して「ご飯がおいしくなる薬」「沼に入らされた王様」など、有名な説話シェンミエンの寸劇に取り組みました。そして最後に一堂に会して上演会を行いました。また、くじ引きをひいてラオス語で指示されている内容に沿って行動し、証拠写真を撮り、ゴールする、という内容で、その速さと正確さで順位を決めるゲームもしました。お互いに発音を直したり、意味の説明をしたり、和気あいあいの中、語学力の向上にもつながったタンデム学習でした。最後は教員から今回のタンデム学習の成功を祝うと同時に、今後のさらなる友好関係の深化を祈念する挨拶があり、盛会のうちにタンデム学習を終えました。



タンデム学習における発表



ラオスの寸劇を上演

3月15日の最終日には閉講式が執り行われました。ラオス言語文化副学科長によるラオス語短期研修内容の総括があり、その後、学生一人一人が今回のショートビジットで得たことをラオス語で発表しました。また、学生代表よりラオス語の授業のお礼とラオス国立大学の学生との交流がとても有益で楽しかったという挨拶をしました。そして文学部副学部長から一人一人に修了証書が手渡され、高い成果が得られたことに対するお褒めの言葉をいただきました。最後に引率教員である私から文学部の事前の周到な準備、心温まるご指導により様々な学びを得たことのお礼を申し上げると共に、今後の益々の交流の深化をお願いしました。こうして2週間のショートビジットの幕を閉じました。



副学部長による修了証書授与

今回のラオス語専攻ショートビジットがこのように成果をあげることができた背景には、本学 Joint Education Program の支援があったことを申し添え、ここに心よりお礼を申し上げます。

どうもありがとうございました。



ラオスの寺院にて皆でラオス式挨拶